

定電圧／定電流 直流電源

LX-2 series 取扱説明書

LX-2-010-3.5A

LX-2-018-2A

LX-2-035-1A

LX-2-010-3.5B

LX-2-018-2B

LX-2-035-1B



目次

安全上のご注意.....	1
1. 開梱と設置.....	3
(1)付属品の確認.....	3
(2)外観のチェック.....	3
(3)設置方法.....	3
2. 基本的な使い方.....	4
(1)工場出荷時設定.....	4
(2)各部の名称と機能.....	4
(3)使用方法.....	5
(4)保護機能.....	7
(5)出力の接続.....	8
3. 外部制御機能.....	9
(1)外部コントロール端子.....	9
(2)工場出荷時設定.....	9
(3)リモートセンシング.....	10
(4)アナログ外部制御.....	10
(4-1)出力電圧の制御.....	11
(4-2)出力電流の制御.....	13
(5)外部接点による出力の ON/OFF.....	15
(6)外部接点による出力遮断.....	15
(7)ALARM 出力.....	16
(8)出力 ON/OFF スイッチモードの設定.....	16
4. 保守.....	17
保証期間.....	17
保守サービス.....	17
日常の保守と点検.....	17
5. 仕様.....	19
外観図.....	21
付録.....	23
付録① 負荷電流 対 推奨導体面積.....	23

安全上のご注意

本取扱説明書では、製品を安全にお使いいただくための注意事項を以下のように記載しています。
これらの記号の箇所は必ずお読みください。

■取扱説明書では、製品を安全にお使いいただくために、次のマークを使用して説明しています。

 危険	この表示事項を無視して、操作や取り扱いを誤ると、使用者が死亡または重傷を負う危険が切迫して生じることが想定される内容を示しています。
 警告	この表示事項を無視して、操作や取り扱いを誤ると、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示事項を無視して、操作や取り扱いを誤ると、使用者が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみ発生が想定される内容を示しています。

■お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

	この表示はしてはいけない「禁止事項」を示しています。
	この表示は必ず実行していただきたい「強制事項」を示しています。
	この表示は一般的な「注意事項」を示しています。

■本装置で使用している記号について説明します。

	必ず接地してください。接地しないと、故障のときに感電の原因となります。
---	-------------------------------------

安全にお使いいただくために

.....

本装置は、入力電源AC100V～120V単相を使用する業務用電源装置です。
使用方法を誤ると、死亡、感電、けがなどをする恐れがあり、また火災が起こる可能性があります。
使用する前に本書をよくお読みになり、操作を理解した上で、お使いください。また、本装置は電気の安全に関する知識のある専門家、またはその指導の下でご使用ください。
電源を入れる前に、本書をお読みになり、設置場所および使用環境が適切かご確認ください。
また、異常が発生した場合は、直ちに電源を切りお近くの弊社営業所にご連絡ください。

ご注意

- ・ ラジオ・テレビ等の近くでご使用になると、受信障害を与えることがあります。
- ・ 本装置は、医療関連、原子力関連など人命に関わる設備としての使用を想定していません。

本装置を安全にお使いいただくために、次の注意事項をお守りください。

設置場所	⚠ 警告
<ul style="list-style-type: none"> ・ガス等の発生する場所や導電性異物が入るような場所及び強電磁界中には設置しないでください。 	⊘
<ul style="list-style-type: none"> ・上面及び底面の通風孔には金属性のピン、線材、ビスなどを入れしないでください。 <p>感電、火災の危険が生じます。</p>	⊘

動作電源の接続	⚠ 危険
<ul style="list-style-type: none"> ・2P-3P変換アダプタを使用したときは、緑色のコードを接地してください。 <p>本装置はEMI(電磁妨害)を防ぐためノイズフィルターを内蔵しています。</p> <p>このため、わずかな漏れ電流があり、接地せずに使用すると感電する恐れがあります。</p>	⚠

負荷の接続	⚠ 危険
<ul style="list-style-type: none"> ・負荷の接続の際は、本装置の動作電源が遮断されていることを確認してください。 	⚠
<ul style="list-style-type: none"> ・電圧を出力した状態(OUTPUT ON)では絶対に負荷配線を行わないでください。 	⊘

高温注意	⚠ 警告
<ul style="list-style-type: none"> ・本装置のカバーは熱くなります。長時間触ると火傷をする場合がありますので触らないでください。 	⊘

分解しないでください	⚠ 危険
<ul style="list-style-type: none"> ・弊社の係員または弊社の指定するサービスマン以外の方は、本装置のカバーを外したり、分解したりしないでください。 <p>内部には高電圧を発生する部分があり、誤って触れますと感電する危険があります。</p>	⊘

輸出について

本装置を、国外へ持ち出し、また輸出をされる場合には、事前に弊社営業部にご相談ください。

1. 開梱と設置

(1)付属品の確認

梱包には本体のほかに以下のものが付属しています。

- ①取扱説明書(本紙)
- ②入力ケーブル(2P-3P変換アダプタ付)
- ③外部コントロール用コネクタ(D-Sub 15ピン+フード、Bタイプのみ)

(2)外観のチェック

本体を取り出したら外観をチェックして、へこみ、割れなどがないことを確認してください。

(3)設置方法

- 本装置は自然空冷方式を採用していますので、底面の吸気部分と、上面の排気部分をふさがないようにしてください。
- 本装置はゴム足部を下にし使用してください。横に寝かせたりして使用しないでください。
- 本装置は固定した場所で使用するように設計されています。振動のある場所では使用しないでください。

2. 基本的な使い方

(1) 工場出荷時設定

	LX シリーズ
定電圧設定値 (CV)	最小
定電流設定値 (CC)	最大
過電圧保護設定値 (OVP)	最大

(2) 各部の名称と機能

(シリーズ、定格表示はLX-2-035-1Aを示します)

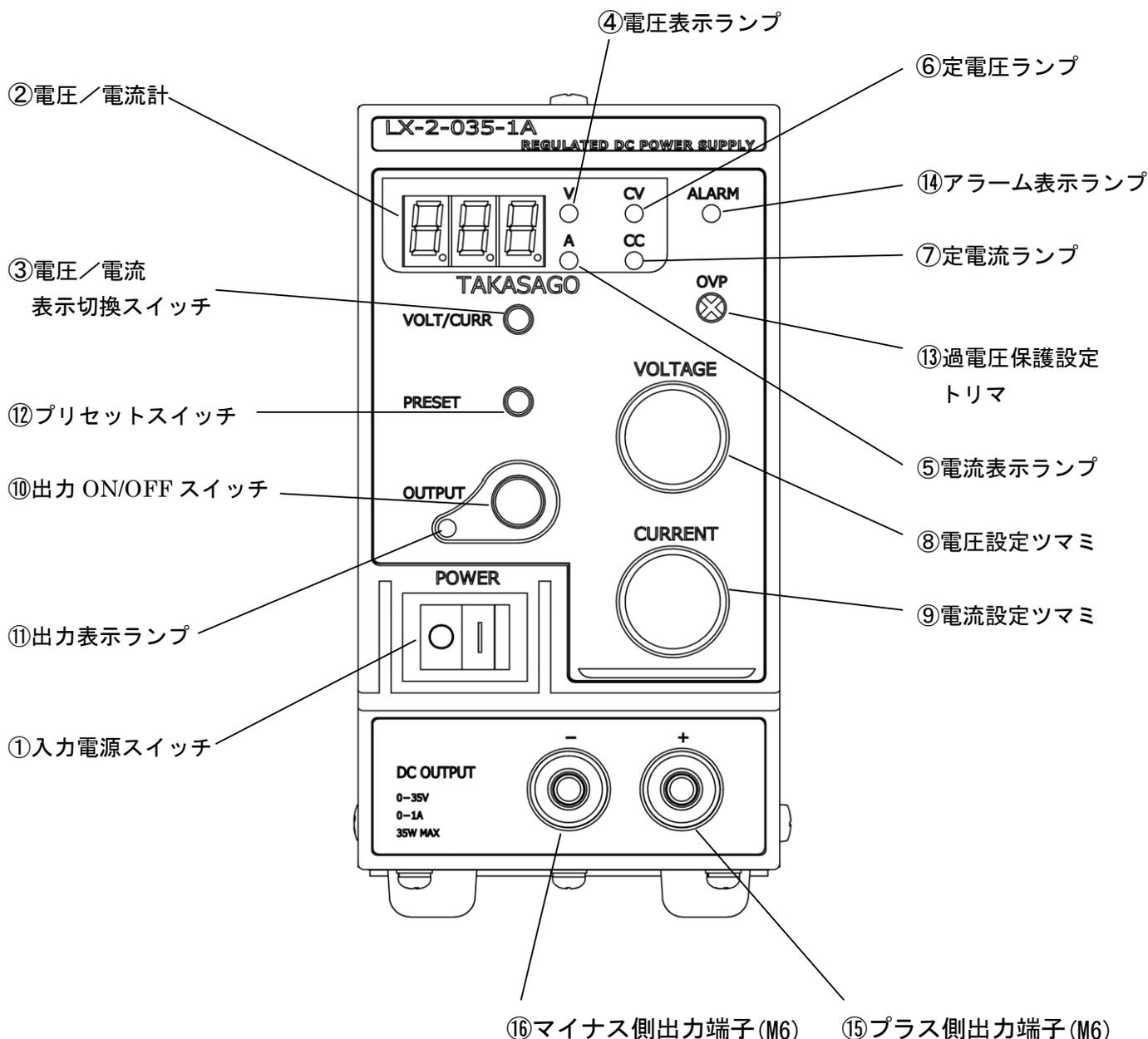


図1. フロントパネル

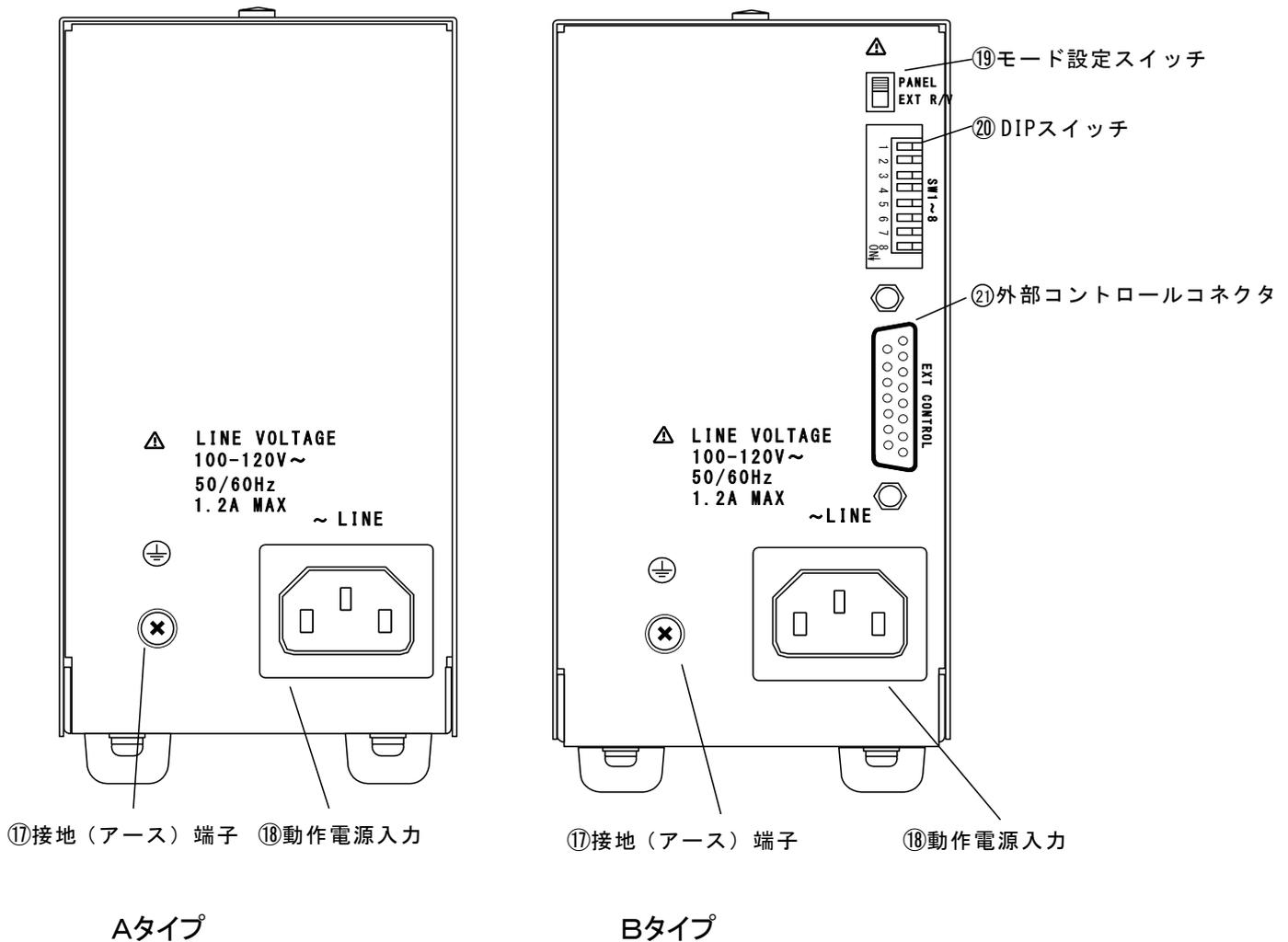


図2. リアパネル

(3) 使用方法

・定電圧電源としての使い方 (CV)

【操作方法】

- 1) 入力電源スイッチ『POWER』①の『 | 』側を押し、電源を「ON」にします。
- 2) プリセットスイッチ『PRESET』⑫を押すと、電圧／電流計②に定電圧設定値が表示されます。
(※この時、電圧表示ランプ『V』④が点灯していることを確認してください)
- 3) プリセットスイッチ『PRESET』⑫を押したまま、電圧設定つまみ『VOLTAGE』⑧を回し、希望する電圧値に設定します。
- 4) 電圧／電流表示切換スイッチ『VOLT／CURR』③を押し、電流表示ランプ『A』⑤を点灯させます。
- 5) プリセットスイッチ『PRESET』⑫を押すと、電圧／電流計②に電流制限値が表示されます。
- 6) プリセットスイッチ『PRESET』⑫を押したまま、電流設定つまみ『CURRENT』⑨を回し、希望する電流制限値に設定します。

- 7) 出力ON/OFFスイッチ『OUTPUT』⑩を押すと、出力電圧が立ち上がります。
 また、出力表示ランプ『ON』⑪(緑色)と定電圧ランプ『CV』⑥(緑色)が点灯します。
 さらに、出力ON/OFFスイッチ『OUTPUT』⑩を押すと、出力はOFFとなり、
 『OUTPUT』⑩を押すたびに ON→OFF→ON…… を繰り返します。
- 8) 負荷電流が電流制限値を超えると定電流モードへ移行し、出力電圧を低下させて負荷電流を制限値に抑えます。
 このとき、定電流ランプ『CC』⑦(橙色)が点灯します。

⚠ 注意

- ・本装置の回路故障、誤操作などにより過電圧が発生することがありますので、必ず過電圧保護(OVP)を設定してください。 
- ・負荷と並列に大容量のコンデンサが接続されていますと、電圧の立ち上がりで充電電流が流れます。このとき、出力電流が定電流制限値を超えますと立ち上がり時間が長くなります。これは、立ち下がりについても同様です。
- ・故障の原因となりますので、設定ツマミのシャフトに無理のかかる回し方をしないでください。

・定電流電源としての使い方(CC)

【操作方法】

- 1) 入力電源スイッチ『POWER』①の『 | 』側を押し、電源を「ON」にします。
- 2) 電圧／電流表示切換スイッチ『VOLT/CURR』③を押し、電流表示ランプ『A』⑤を点灯させます。
- 3) プリセットスイッチ『PRESET』⑫を押すと、電圧／電流計②に定電流設定値が表示されます。
- 4) プリセットスイッチ『PRESET』⑫を押したまま、電流設定ツマミ『CURRENT』⑨を回し、希望する電流値に設定します。
- 5) 電圧／電流表示切換スイッチ『VOLT/CURR』③を押し、電圧表示ランプ『V』④を点灯させます。
- 6) プリセットスイッチ『PRESET』⑫を押すと、電圧／電流計②に電圧制限値が表示されます。
- 7) プリセットスイッチ『PRESET』⑫を押したまま、電圧設定ツマミ『VOLTAGE』⑧を回し、希望する電圧値に設定します。
- 8) 出力ON/OFFスイッチ『OUTPUT』⑩を押すと、出力電流が立ち上がります。
 また、出力表示ランプ『ON』⑪(緑色)と定電流ランプ『CC』⑦(橙色)が点灯します。
 さらに、出力ON/OFFスイッチ『OUTPUT』⑩を押すと、出力はOFFとなり、
 『OUTPUT』⑩を押すたびに ON→OFF→ON…… を繰り返します。
- 9) 負荷電圧が電圧制限値を超えると定電圧モードへ移行し、負荷電圧を電圧制限値に抑えます。
 このとき、定電圧ランプ『CV』⑥(緑色)が点灯します。

⚠ 注意

- ・故障の原因となりますので、設定ツマミのシャフトに無理のかかる回し方をしないでください。

(4) 保護機能

・過電圧保護(OVP)

本装置の回路故障、誤操作、定電流モードでの負荷オープンなどにより、過電圧が発生した場合に出力を遮断し、負荷を保護することができます。

過電圧保護の動作電圧は、定格電圧の約5%～105%に設定できます。

過電圧保護回路が2ms以上の幅で過電圧を検出すると出力を遮断し、負荷を保護することができます。

○設定の方法

出力端子に負荷を接続する前に、以下の手順で設定してください。

負荷を接続したまま設定をすると、負荷に過電圧が出力されます。

- 1) 過電圧保護設定トリマ『OVP』⑬を精密ドライバーなどで右いっぱいに戻します。
- 2) 電圧／電流表示切換スイッチ『VOLT／CURR』③を押し、電圧表示ランプ『V』④を点灯させます。
- 3) プリセットスイッチ『PRESET』⑫を押したまま、電圧設定つまみ『VOLTAGE』⑧を回し、希望する過電圧値に設定します。
- 4) 出力ON／OFFスイッチ『OUTPUT』⑩を押すと、過電圧値で出力します。
- 5) 過電圧保護設定トリマ『OVP』⑬を精密ドライバーなどで左に少しずつ回します。
- 6) 過電圧設定トリマが過電圧設定値に達すると過電圧保護が動作し、アラーム表示ランプ『ALARM』⑭が点灯、出力が遮断します。

(この時、アラーム表示ランプ以外のランプは全て消灯します)

- * 定電流モード中の負荷オープン時にスイッチングを停止したい場合、
過電圧保護設定値を定電圧設定値よりも低く設定してください。

○過電圧保護の解除

過電圧保護を解除するには、電圧設定つまみ⑧を左に回した後、入力電源スイッチ①をOFFにしてください。

アラームランプが消えた後に、入力電源スイッチ①を再投入すると復帰します。

アラームランプが消えるまでの時間は、数秒程度かかりますが異常ではありません。

・過熱保護

電源内部温度の異常上昇時に過熱保護が動作し、アラーム表示ランプ『ALARM』⑭が点灯、出力を遮断します。(この時、アラーム表示ランプ以外のランプは全て消灯します)

過熱保護を解除するには、入力電源スイッチをOFFにし、十分温度が下がってから入力電源スイッチ①を再投入すると復帰します。

(5) 出力の接続

図3のように出力を接続してください。

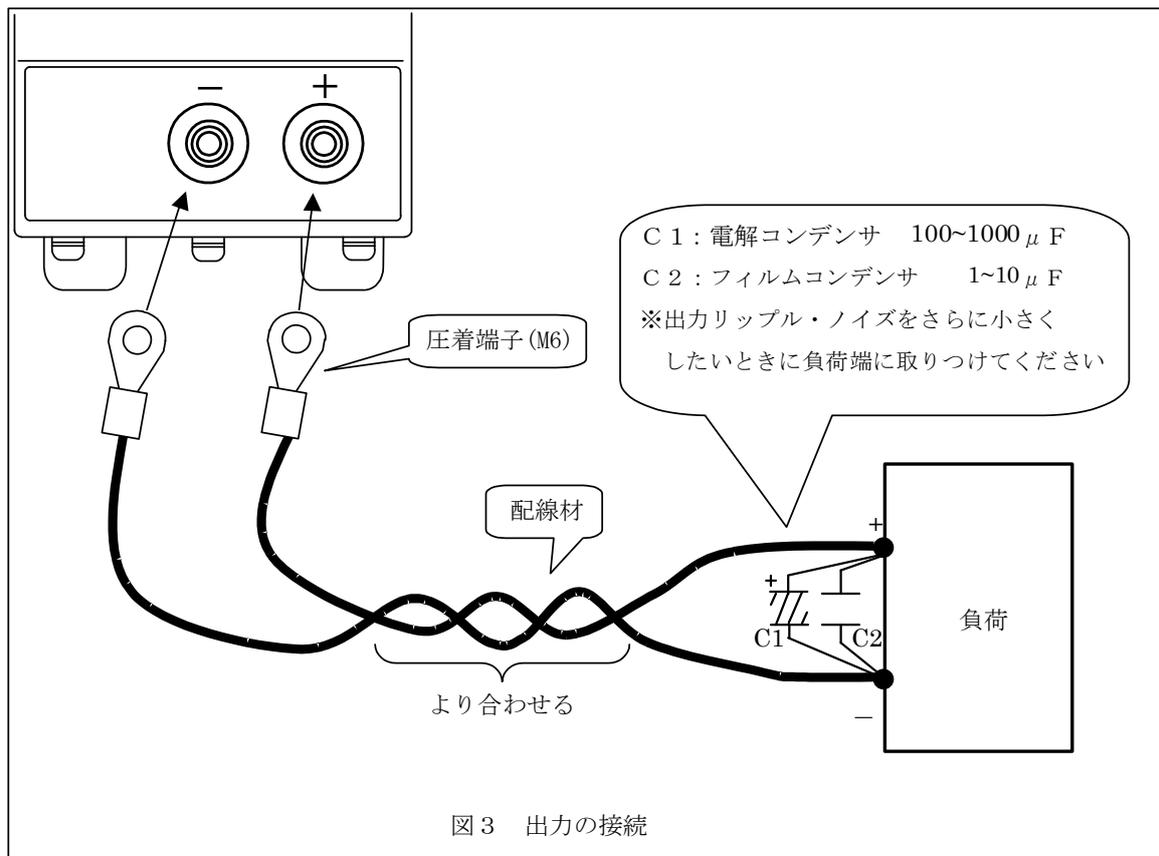


図3 出力の接続

⚠ 危険

- ・負荷の接続の際は、本装置の動作電源が遮断されていることを確認してください。 
- ・本装置から電圧を出力した状態（OUTPUT ON）では絶対に負荷配線を行わないでください。 

⚠ 注意

- ・配線材には圧着端子（ $\phi 6$ ）を取り付け、しっかりと締め付けてください。 
締め付けが緩いと端子の発熱により、変形、焼損の恐れがあります。
- ・配線材は負荷電流に対して、十分な断面積のものを使用してください。細い線材は焼損する恐れがあります。 
（付録①負荷電流 対 推奨導体面積 を参照願います。）

ご参考

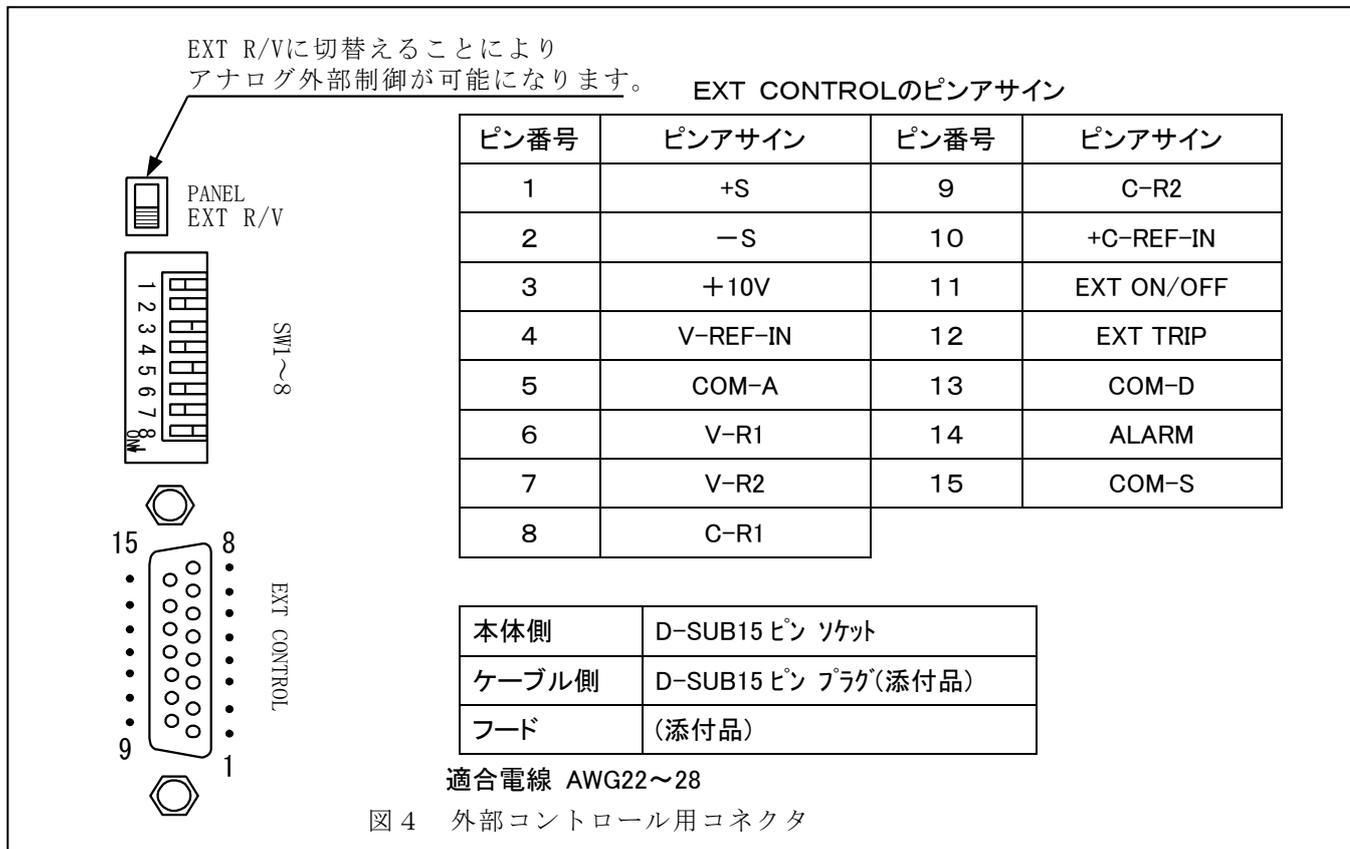
- ・配線はより合わせることで負荷端でのリップル、ノイズを小さくすることができます。
- さらに、図3のようにC1、C2を負荷端の近くに接続することでノイズレベルを規格値よりも小さくすることができます。
- このときC1、C2は高周波インピーダンスの小さなものを使い、リード線は極力短く切って接続してください。

外部制御機能

※この章では、本装置を外部から操作する場合の方法について説明します。(Bタイプにのみ適用されます。)

(1)外部コントロール端子

本装置背面パネルには、外部コントロールコネクタが設けてあり、DIPスイッチSW1～8を設定することにより外部アナログ制御を行うことができます。



(2)工場出荷時設定

背面のモード設定スイッチおよび DIP スwitch (SW1～8) が、図5 のようになっていることを確認してください。

項目	初期状態	初期設定内容	
モードスイッチ	PANEL(上側)	フロントパネルによる制御、アナログ制御無効	
DIP スイッチ	SW1	ON	
	SW2	ON	
	SW3	OFF	アナログ外部制御方法切替えスイッチ
	SW4	ON	外部電圧又は外部抵抗(A)による出力電流の制御
	SW5	OFF	アナログ外部制御方法切替えスイッチ
	SW6	ON	外部電圧又は外部抵抗(A)による出力電圧の制御
	SW7	ON	フロントパネルの出力 ON/OFF スwitch有効 外部接点による出力の ON/OFF 無効
	SW8	OFF	フロントパネルの出力 ON/OFF スwitch有効

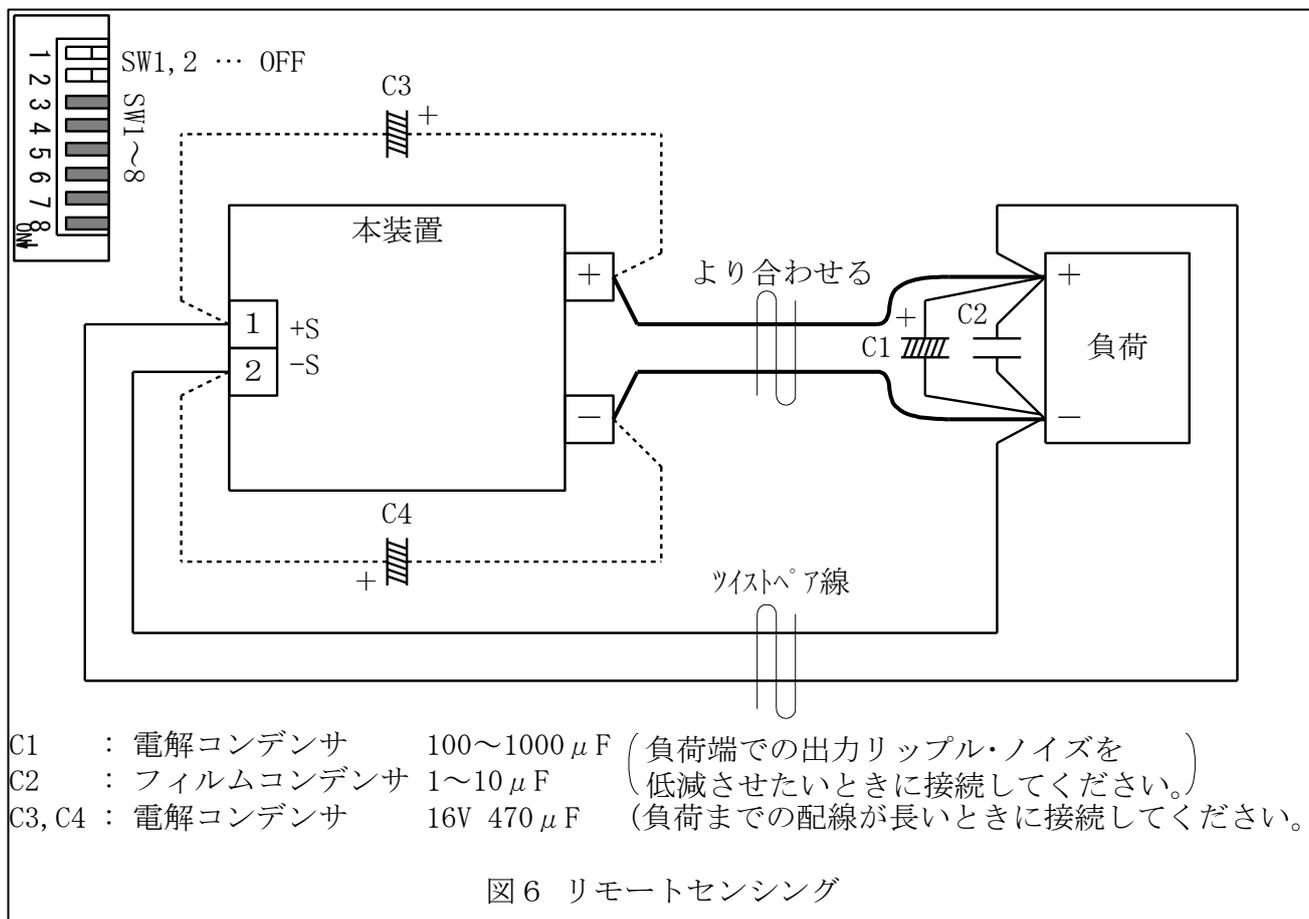
各レバーを
矢印の方向(←)
に倒した状態が
ONです。

図5 工場出荷時の設定

(3)リモートセンシング

負荷までの配線による電圧降下を補償して、ロードレギュレーションの悪化を防ぐことができます。

補償できる電圧降下は片道1Vまでです。この機能はモード設定スイッチの設定に関わらず使用できます。



⚠ 注意

- ・リモートセンシングの配線は確実にこなしてください。
- ・リモートセンシングをおこなった状態で出力ラインをスイッチなどで開閉しないでください。
- ・指定のない DIP スイッチは、他の項目の指示あるいは工場出荷時の設定(図 5)に従ってください。

(4)アナログ外部制御

モード設定スイッチを EXT R/V 側に切替えることにより、アナログ外部制御が可能になります。

この場合、出力電圧、出力電流ともフロントパネルにある電圧設定つまみ、電流設定つまみは無効となり、外部コントロール端子からの制御になります。

(4-1)出力電圧の制御

・外部電圧による制御

外部から加える電圧に比例した出力電圧を得る方法です。

0～10V の外部電圧に対して 0～最大定格出力電圧を得ることができます。

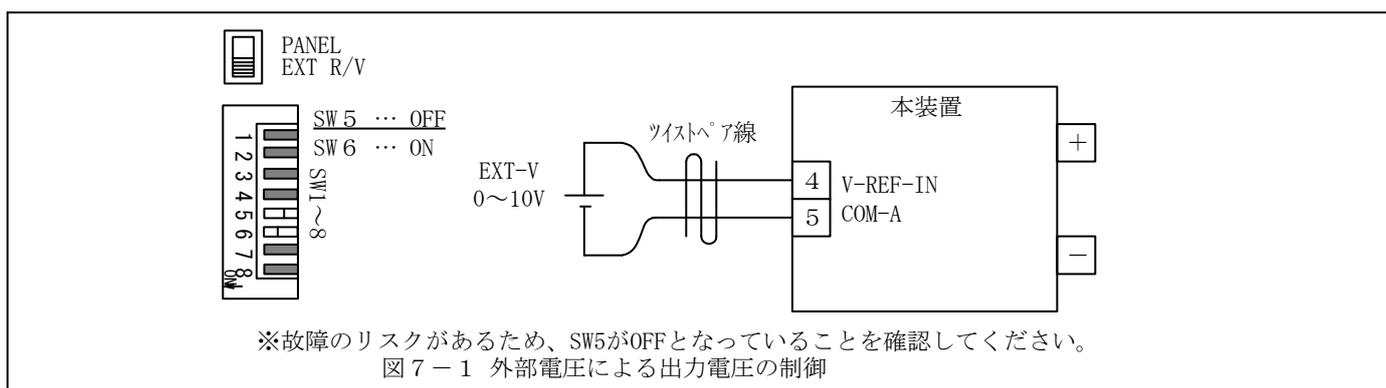
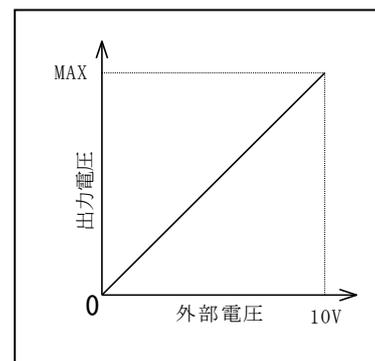
外部電圧用電源には 1mA の電流を取り出せるものを使用してください。

出力電圧と外部電圧との関係を以下に示します。

$$\text{出力電圧(V)} = \text{最大定格出力電圧(V)} \times \frac{\text{外部電圧(V)}}{10}$$

外部電圧による出力の精度は、設定電圧の±2%±(最大定格出力電圧の±0.1%)となります。

また、直線性は、約 0.1%となります。



電流制限値は次項(4-2)出力電流の制御を参照し、外部コントロール端子を使用して設定して下さい。

電流制限値を本装置の定格最大出力電流でご使用の場合、DIP スイッチを下記設定にすることにより、

外部コントロール端子を使用しての設定を省略できます。SW3…ON、SW4…ON

・外部抵抗による制御(A)

外部抵抗の値が無限大(オープン)で出力電圧がゼロになる方法です。

(フェイルセーフコントロール)

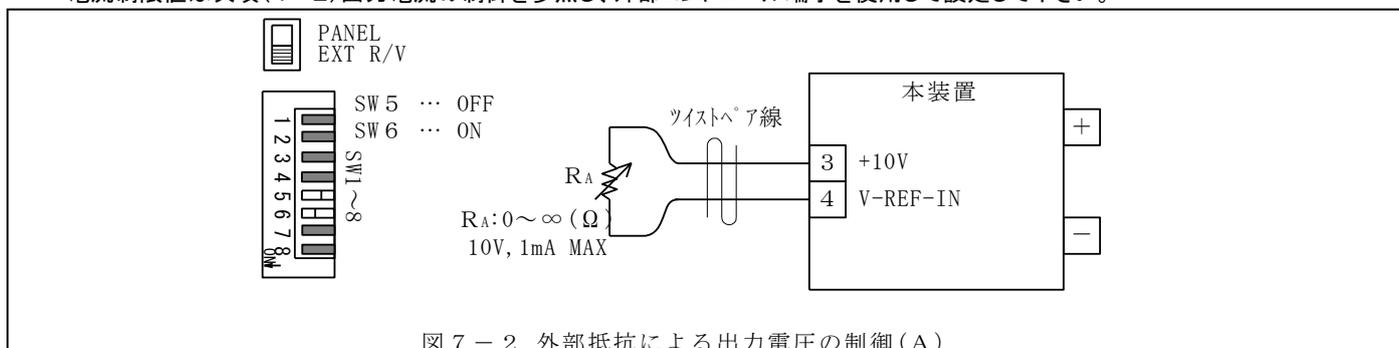
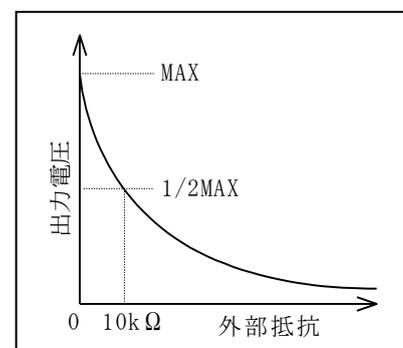
何種類かの抵抗をスイッチで切替え出力を制御する際、切替時過電圧が発生しません。

外部抵抗には、最大 10V/1mA の電圧/電流が印加されます。

出力電圧と外部抵抗値との関係を以下に示します。

$$\text{出力電圧(V)} = \text{最大定格出力電圧(V)} \times \frac{10}{R_A(\text{k}\Omega) + 10}$$

電流制限値は次項(4-2)出力電流の制御を参照し、外部コントロール端子を使用して設定して下さい。



電流制限値を装置の定格最大出力電流でご使用の場合、DIP スイッチを下記設定にすることにより、

外部コントロール端子を使用しての設定を省略できます。SW3…ON、SW4…ON

・外部抵抗による制御 (B)

外部抵抗の値がゼロ (ショート) で出力電圧がゼロになる方法です。

出力電圧は外部抵抗の値に比例します。外部抵抗には常に 1mA の電流が流れます。

出力電圧と外部抵抗の値との関係を以下に示します。

$$\text{出力電圧(V)} = \text{最大定格出力電圧(V)} \times \frac{R_B(\text{k}\Omega)}{10}$$

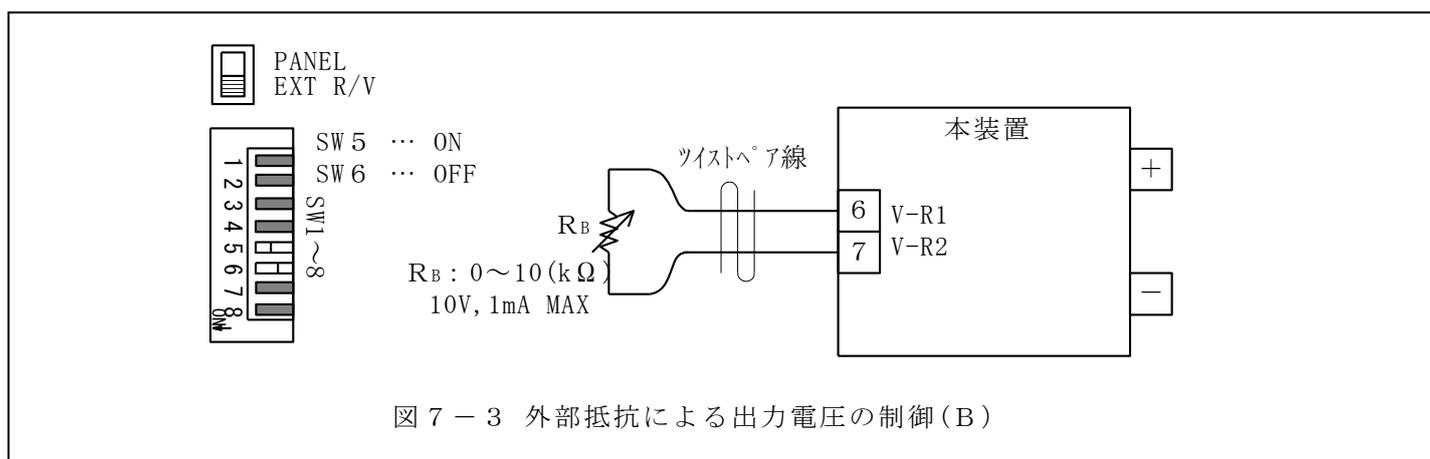
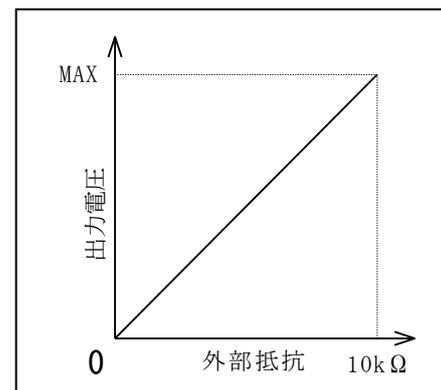


図 7 - 3 外部抵抗による出力電圧の制御 (B)

電流制限値は次項 (4-2) 出力電流の制御を参照し、外部コントロール端子を使用して設定して下さい。電流制限値を本装置の定格最大出力電流でご使用の場合、DIP スイッチを下記設定にすることにより、外部コントロール端子を使用しての設定を省略できます。

SW3...ON

SW4...ON

⚠ 注意

- ・本装置の回路故障、誤操作などにより過電圧が発生することがありますので、必ず過電圧保護 (OVP) を設定してください。 !
- ・EXT-V はリップル、ノイズなどの少ない電圧源を使用してください。 !
- ・V-REF-IN 端子に、+10V を超える電圧を印加しないでください。 !
- ・コントロールコモン (5 番端子) は、内部で出力端子のマイナス側と接続されています。 !
- ・RA および RB は、金属皮膜抵抗器などの温度特性のよいものを使用してください。 !
- ・外部抵抗 RB が一瞬でもオープンになると出力に過電圧が発生します。 !
- ロータリースイッチなどで抵抗を切替える際は、ショータイングタイムのものをご使用ください。 !
- ・指定のない DIP スイッチは、他の項目の指示あるいは工場出荷時の設定 (図 5) に従ってください。

(4-2)出力電流の制御

・外部電圧による制御

外部から加える電圧に比例した出力電流を得る方法です。

0~10V の外部電圧に対して 0~最大定格出力電流を得ることができます。

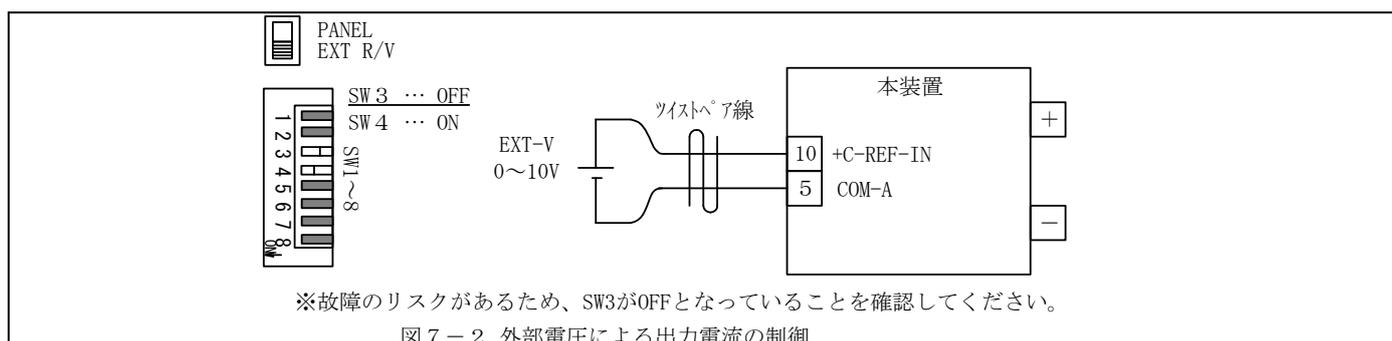
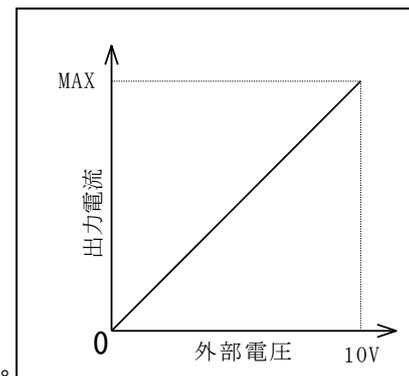
外部電圧用電源には 1mA の電流を取り出せるものを使用してください。

出力電流と外部電圧との関係を以下に示します。

$$\text{出力電流(A)} = \text{最大定格出力電流(A)} \times \frac{\text{外部電圧(V)}}{10}$$

外部電圧による出力の精度は、設定電圧の±2%±(最大定格出力電流の±0.1%)となります。

また、直線性は、約 0.1%となります。



電圧制限値は前項(4-1)出力電圧の制御を参照し、外部コントロール端子を使用して設定して下さい。

電圧制限値を本装置の定格最大出力電圧でご使用の場合、DIP スイッチを下記設定にすることにより、

外部コントロール端子を使用しての設定を省略できます。SW5...ON、SW6...ON

・外部抵抗による制御(A)

外部抵抗の値が無限大(オープン)で出力電流がゼロになる方法です。

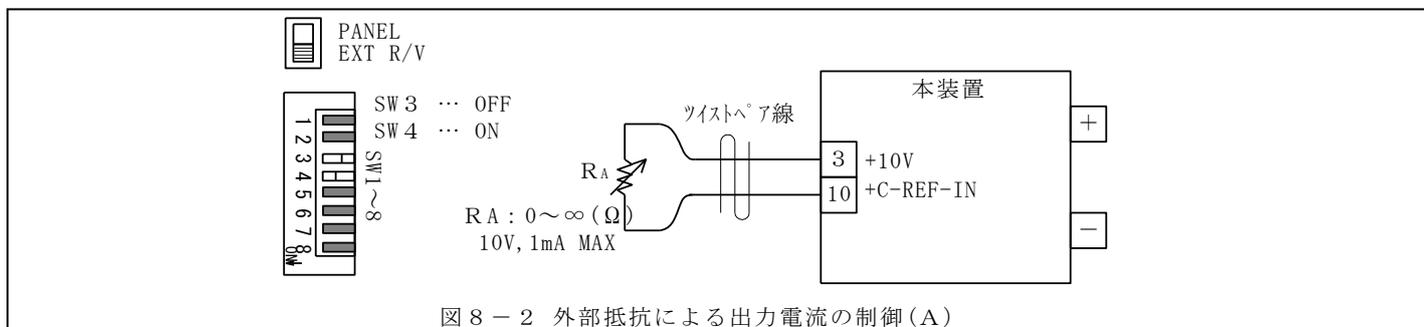
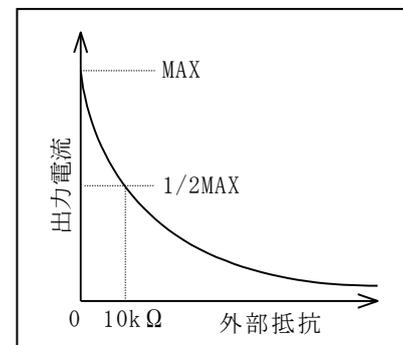
(フェイルセーフコントロール)

何種類かの抵抗をスイッチで切替え出力を制御する際、切替時過電流が発生しません。

外部抵抗には、最大 10V/1mA の電圧/電流が印加されます。

出力電流と外部抵抗値との関係を以下に示します。

$$\text{出力電流(A)} = \text{最大定格出力電流(A)} \times \frac{10}{R_A \text{ (k}\Omega\text{)} + 10}$$



電圧制限値は前項(4-1)出力電圧の制御を参照し、外部コントロール端子を使用して設定して下さい。

電圧制限値を本装置の定格最大出力電圧でご使用の場合、DIP スイッチを下記設定にすることにより、

外部コントロール端子を使用しての設定を省略できます。SW5...ON、SW6...ON

・外部抵抗による制御 (B)

外部抵抗の値がゼロ (ショート) で出力電流がゼロになる方法です。

出力電流は外部抵抗の値に比例します。外部抵抗には常に 1mA の電流が流れます。

出力電流と外部抵抗の値との関係を以下に示します。

$$\text{出力電流(A)} = \text{最大定格出力電流(A)} \times \frac{R_B (\text{k}\Omega)}{10}$$

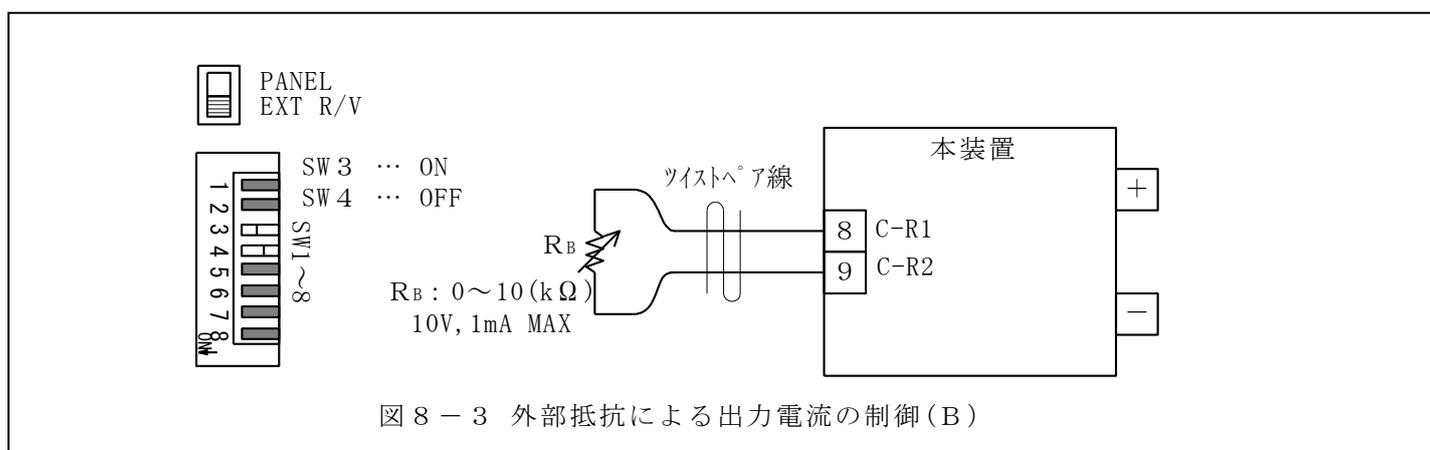
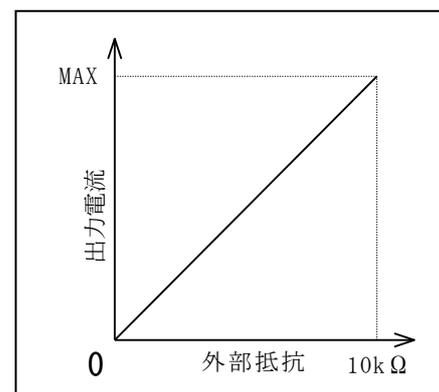


図 8-3 外部抵抗による出力電流の制御 (B)

電圧制限値は前項(4-1)出力電圧の制御を参照し、外部コントロール端子を使用して設定して下さい。

電圧制限値を本装置の定格最大出力電圧でご使用の場合、DIP スイッチを下記設定にすることにより、外部コントロール端子を使用しての設定を省略できます。

SW5...ON

SW6...ON

⚠ 注意

- ・EXT-V はリップル、ノイズなどの少ない電圧源を使用してください。
 - ・+C-REF-IN 端子に、+10V を超える電圧を印加しないでください。
 - ・コントロールコモン(5 番端子)は、内部で出力端子のマイナス側と接続されています。
 - ・RA および RB は、金属皮膜抵抗器などの温度特性のよいものを使用してください。
 - ・外部抵抗 RB が一瞬でもオープンになると出力に過電流が発生します。
- ロータリースイッチなどで抵抗を切替える際は、ショータイングタイムのものをご使用ください。
- ・指定のない DIP スイッチは、他の項目の指示あるいは工場出荷時の設定(図 5)に従ってください。



(5)外部接点による出力の ON/OFF

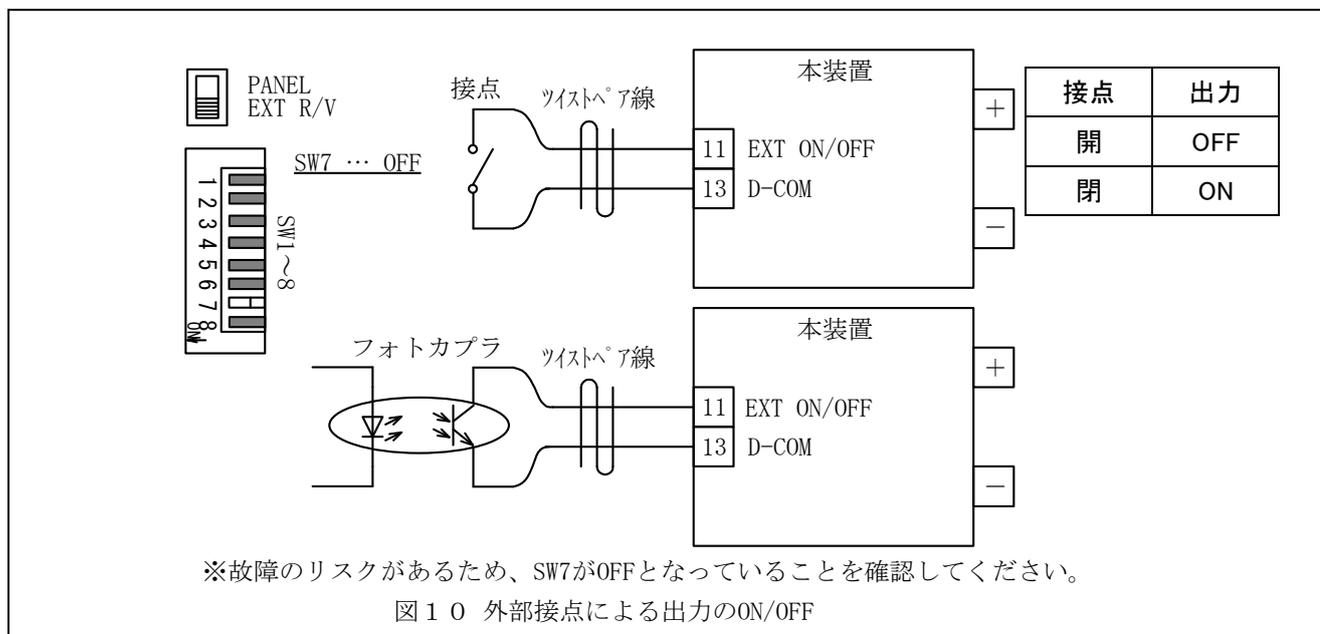
小容量の接点または、フォトカブラの出力で本装置の出力を ON/OFF することができます。

接点容量は、5V-2.5mA で、小信号用リレー等の無電圧の接点を使用してください。

接点が閉(ショート)の状態では本装置の出力が ON 状態となります。

図9のように配線し、背面 DIP スイッチを設定してください。フロントパネルの出力 ON/OFF スイッチは無効になります。

この機能はモード設定スイッチの設定に関わらず使用できます。



(6)外部接点による出力遮断

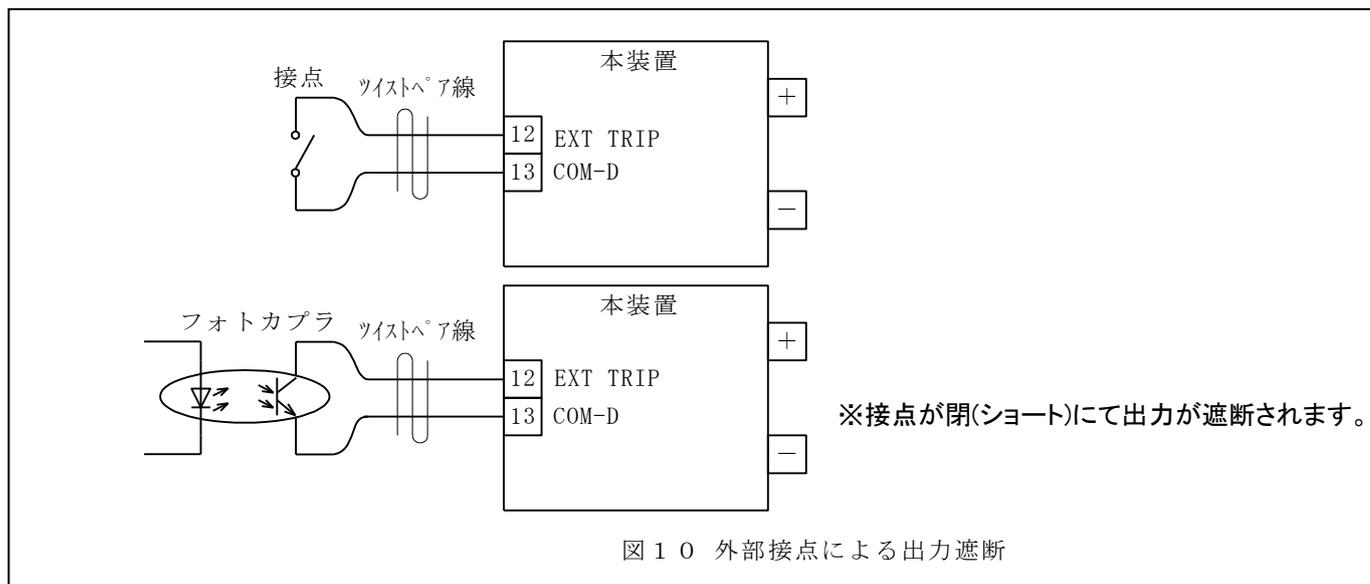
小容量の接点またはフォトカブラの出力で本装置の出力を遮断することができます。

接点容量は、5V-2.5mA で、小信号用リレーなどが使えます。接点が閉(ショート)の状態では、

本装置の出力が遮断されます。

出力遮断が行われると、ALARM出力がアクティブになります。詳細は、本章の(8)を参照してください。

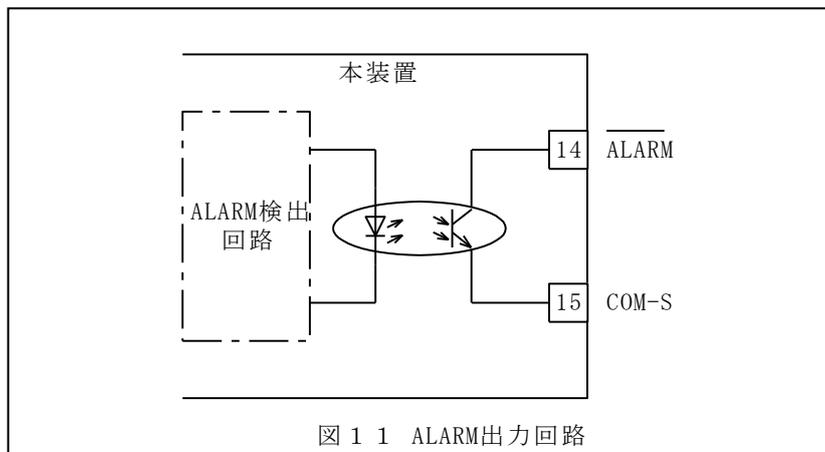
デジタルコモン(COM-D:13番端子)は本装置内で、出力端子のマイナス側に接続されています。



(7)ALARM 出力

本装置の ALARM 信号を外部へ出力することができます。

出力は、フォトカプラで絶縁されたオープンコレクタで得られます。



本装置の ALARM 信号は、正常時に「HI」。過電圧保護機能、過熱保護機能、外部接点による出力遮断機能のいずれかが動作すると「LOW」となります。

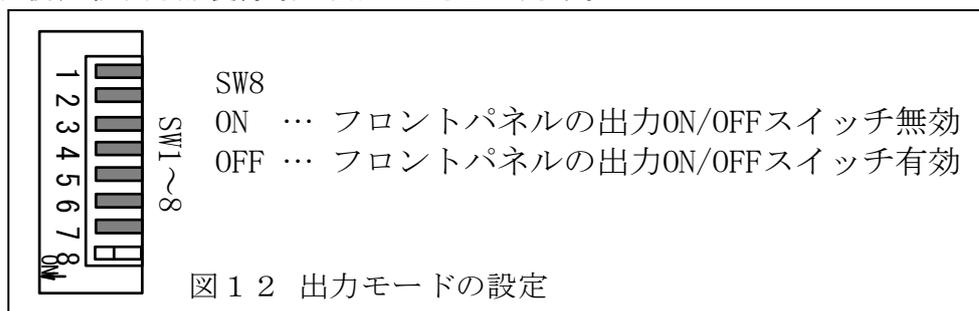
ALARM 出力の電気的仕様

項目	仕様
絶縁耐圧	DC500V(入力、出力、シャーシに対して)
最大コレクタ電圧	60V
最大コレクタ電流	10mA

(8)出力 ON/OFF スイッチモードの設定

フロントパネルの出力 ON/OFF スイッチを無効にすることができます。背面スイッチ 8 番を「ON」にしてください。これで、フロントパネルの ON/OFF スイッチは ON に固定されます。

電源投入後、2秒以内(無負荷時)に出力が立ち上がります。



⚠ 危険

- ・ フロントパネルの出力 ON/OFF スイッチを無効にしている際、CV 及び CC の設定が正しくされていることを確認してから、本装置を負荷に接続してください。



保守

保証期間

納入品の保証期間は、納入から1年間といたします。この期間中に当社の責任による、製造上および部品の劣化による故障が生じた場合は、無償修理を行います。ただし天災、取扱いの誤り等による故障、および当社外において改造などが行われた製品の修理は有償となります。

保守サービス

納入後2年目以降は有償となります。
随時保守サービスは行っており、その都度料金を申し受けます。

修理・保守受付専用ダイヤル

平日9:00-12:00 13:00-17:00

フリーダイヤル



0120-963-213

携帯からは 0235-25-9783

■ ご連絡の際のお願い

修理をご依頼の際は本体製造番号(製品背面パネルに貼り付けのラベルに記載)をご連絡願います。

日常の保守と点検

■ 外装の清掃

清掃する前に「入力電源スイッチ」をOFFし、接続されている配線を全て取り外してください。

その後市販のクリーニングクロスで外装を清掃してください。

汚れのひどいときは、水で薄めた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取ってください。

シンナーやベンジンなどの溶剤は使用しないでください。

本ページは空白のページです。

仕様

仕様	LX-2-010-3.5A	LX-2-010-3.5B	LX-2-018-2A	LX-2-018-2B	LX-2-035-1A	LX-2-035-1B	
定格出力電圧範囲	0～10V		0～18V		0～35V		
定格出力電流範囲	0～3.5A		0～2A		0～1A		
定格最大出力電力	35W		36W		35W		
動作電源	AC90～132V 45～65Hz						
入力電流*1	約1A						
電力効率*1	67%以上		68%以上		70%以上		
定電圧	ロードレギュレーション*2	0.01%+5mV以下					
	ラインレギュレーション*3	0.01%+3mV以下					
	リップル (実効値) *4	5mVRMS					
	ノイズ*5	50mV _{P-P}					
	過渡回復時間*6	1.5msec以内					
	温度係数 (代表値)	±100ppm/°C					
	立ち上がり	80ms (全負荷時)					
	立ち下がり	500ms (全負荷時)					
定電流	ロードレギュレーション*7	0.05%+10mA					
	ラインレギュレーション*3	0.05%+5mA					
	リップル (実効値) *4	5mARMS					
	温度係数 (代表値)	±500ppm/°C					
出力電圧計	表示	10.0V	18.0V	35.0V			
	確度	0.5%±2digit (23±5°C)					
出力電流計	表示	3.50A	2.00A	1.00A			
	確度	1.0%±5digit (23±5°C)					
保護機能	過電圧保護、過熱保護						
動作環境	周囲温度	動作0～40°C、保存-20～70°C					
	湿度	動作20～80%RH、保存20～85%RH					
	その他	凍結、結露、腐食性ガス等のないこと					
冷却方式	自然空冷						
耐電圧	入力-F G間	1.5kV AC1分間					
	入力-出力間	1.5kV AC1分間					
	出力-F G間	500V DC1分間					
絶縁抵抗	500VDCにて50MΩ以上						
外形寸法 W×H×D (mm)	Aタイプ	71(72)×130(141.5)×219(247) ()内は突起を含む最大寸法					
	Bタイプ	71(72)×130(141.5)×219(249) ()内は突起を含む最大寸法					
質量	1.5kg以下						
アナログ外部制御	リモートセンシング*8	なし	可能	なし	可能	なし	可能
	出力電圧コントロール*9	なし	可能	なし	可能	なし	可能
	出力電流コントロール*9	なし	可能	なし	可能	なし	可能
	出力ON/OFFコントロール*10	なし	可能	なし	可能	なし	可能
	出力遮断*11	なし	可能	なし	可能	なし	可能
	A L A R M出力*12	なし	可能	なし	可能	なし	可能
	出力ON/OFF スイッチモードの選択*13	なし	可能	なし	可能	なし	可能

【共通仕様】

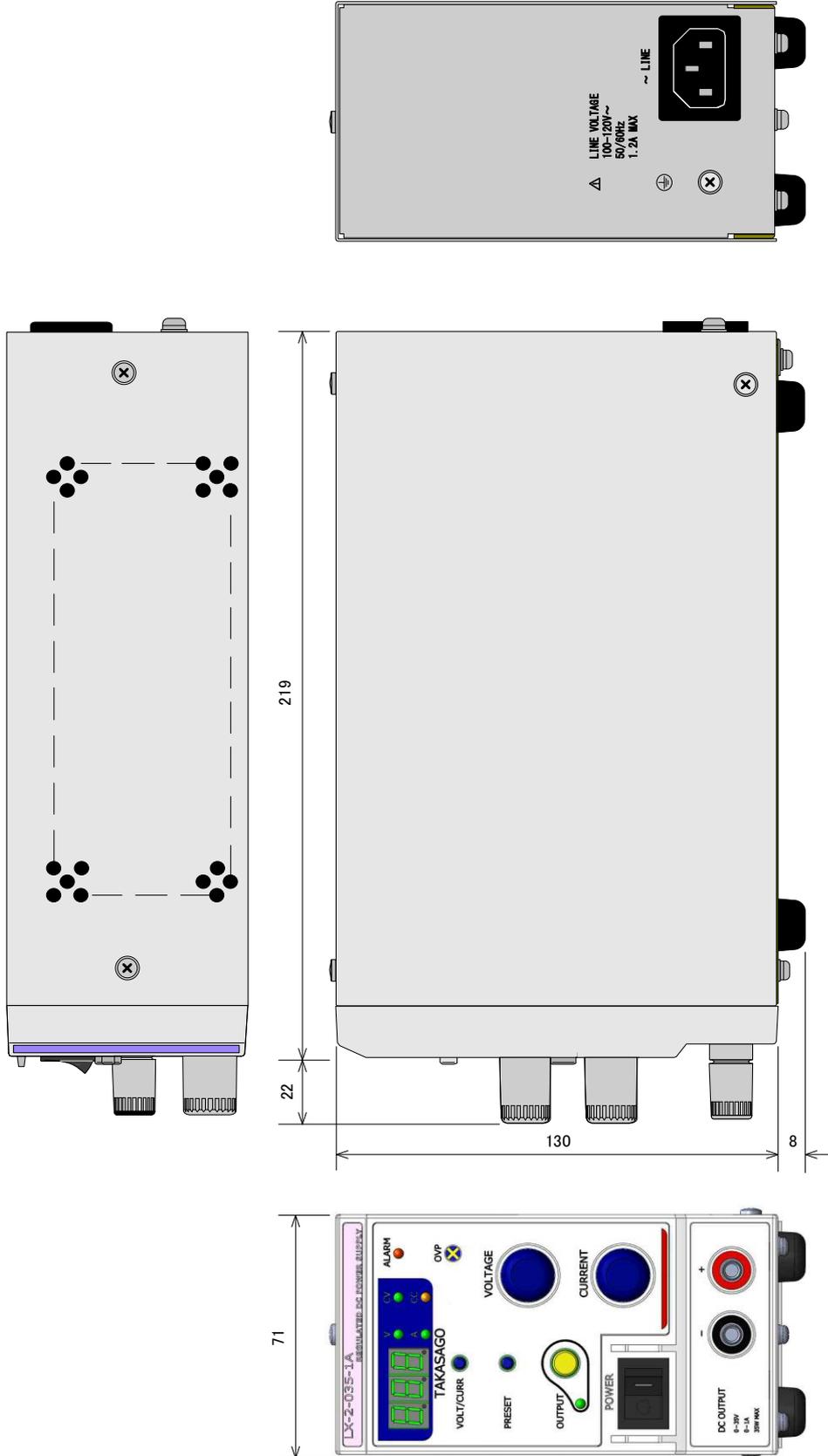
- *1 : AC100V単相、最大出力電力のとき
- *2 : 負荷電流の0～100%に対して出力端子にて測定
- *3 : 入力電圧の±10%の変動に対して
- *4 : 20Hz～1MHzにて
- *5 : 20Hz～20MHzのオシロスコープにて測定
- *6 : 負荷電流の50%～100%の急変に対して、出力電圧が0.1%±10mV以内に回復する時間
- *7 : 最大出力電流にて、負荷抵抗を0～定格値まで変化させた場合
- *8 : 負荷までの導線の電圧降下を片道1Vまで補償
- *9 : 電圧(0～10V)、抵抗(0～10kΩ)にてコントロール
- *10: TTL信号あるいは接点信号入力にてON/OFF可能
- *11: TTL信号あるいは接点信号入力にて遮断可能
- *12: オープンコレクタ方式
- *13: 電源投入時、フロントの出力ON/OFFスイッチを操作せず出力ON可能

注意

定格出力電圧、定格出力電流、定格最大出力電力以上では使用しないでください。

外観図

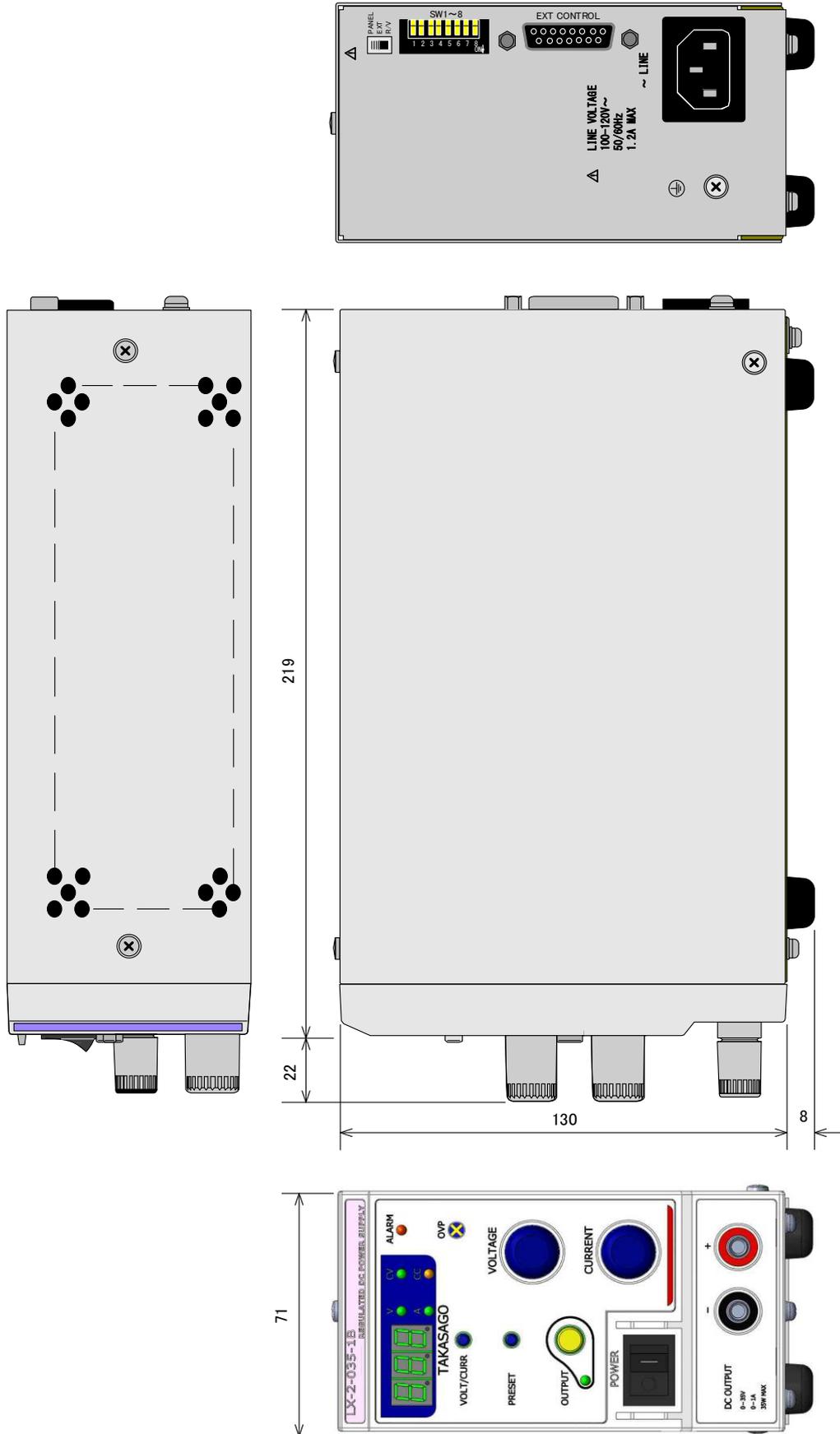
Aタイプ(アナログ外部制御機能無) ※シリーズ、定格表示はLX-2-035-1Aを示します。



付図1

保守

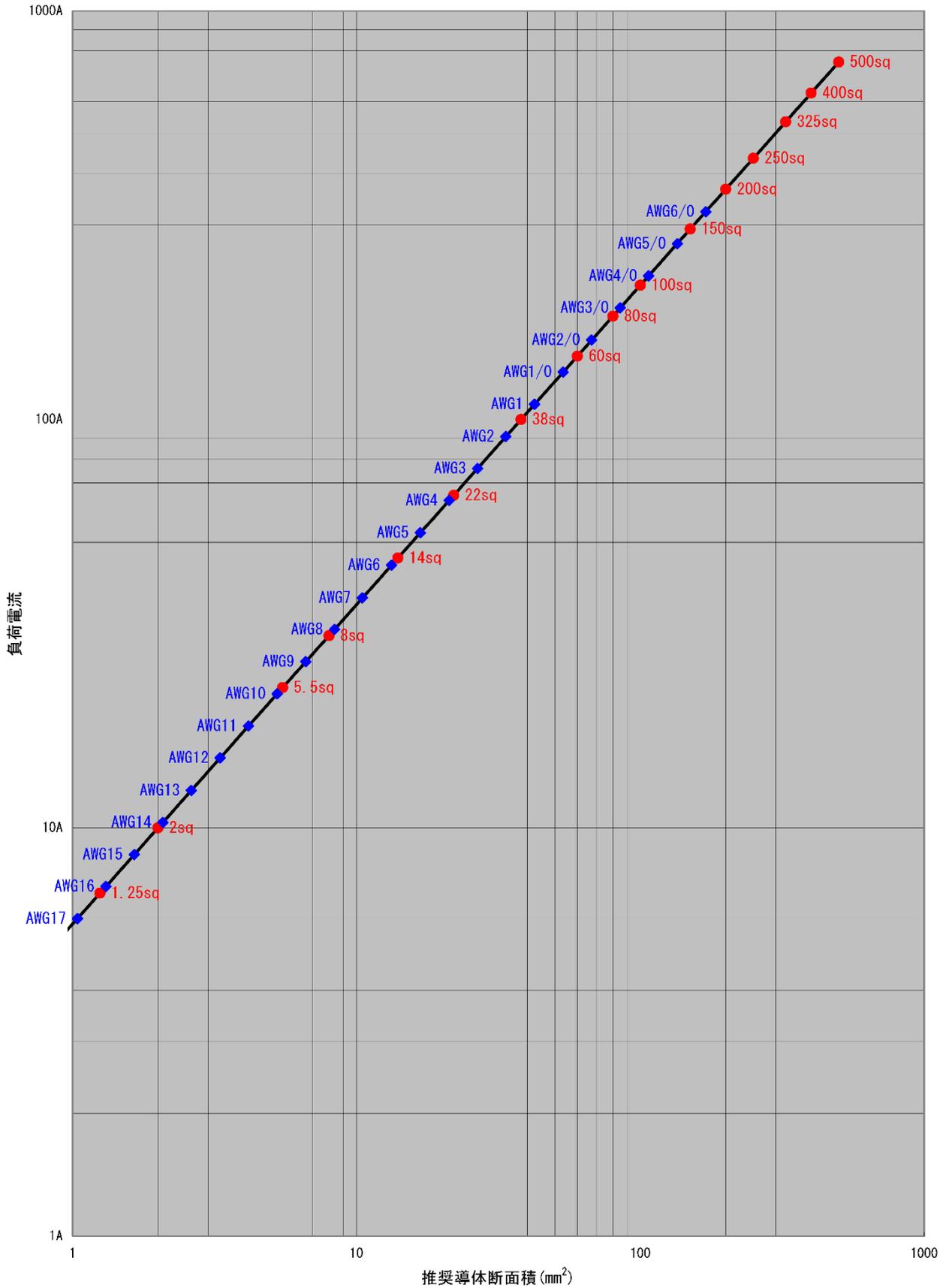
Bタイプ(アナログ外部制御機能付) ※シリーズ、定格表示はLX-2-035-1Bを示します。



付図2

付録

付録① 負荷電流 対 推奨導体面積



本ページは空白のページです。



〒213-8558
神奈川県川崎市高津区溝口 1-24-16

LX-2 シリーズ取扱説明書 2017 年 10 月 Rev.2.0 DOC-1890-02

Copyright 2017 Takasago.LTD